

複数の添加物による複合的な影響について

Q. 複数の添加物を摂取することによって複合的な影響は起きないのですか？

A. 食品安全委員会では、2006 年度に「食品添加物の複合影響に関する情報収集調査」を行いました。その結果、個々の添加物として評価されている影響を超えた複合的な影響が出ている事例は見出されず、日常摂取している範囲内では、添加物を複合してとることによる健康影響が実際に起こる可能性は極めて低いことが報告されました。

この調査は、これまでの国際機関での検討結果や最新の研究成果などを幅広く調査し、添加物の複合影響についての考え方を整理したものです。主に、

- ① 食品中の添加物同士の相互作用（化学反応）と
- ② 複数の添加物が体内に摂取された後の相互作用（特に相乗作用）に着目して行いました。

現在使用が認められているもののように蓄積性がなく、ADI の考え方を基本として個別にリスク評価とリスク管理が行われている添加物は、その複合影響についても安全性が十分に確保されていると考えられます。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

食品安全委員会ホームページ

<http://www.ifsis.fsc.go.jp/fsilvl/do/FSILogon>

「研究・調査情報一覧」から「食品添加物の複合影響に関する情報収集調査」をご覧ください。

Q. 毎日どれくらいの添加物を摂取しているのか調べていますか。

A. 厚生労働省では、個々の添加物の摂取量調査などを実施しています。その結果、多くの添加物では、実際の摂取量が一日摂取許容量（ADI）と比較してかなり少なくなっています。更に、現時点では、複数の添加物による相乗的な悪影響は確認されていないとしています。

食品安全委員会では、この ADI の設定の際には適切な安全係数をとっていること、また、実際の摂取量が ADI をかなり下回っていることから、現時点で特段の問題はないと考えています。

Q. 清涼飲料水中に存在する複数の添加物はその容器の中で反応し、発がん物質であるベンゼンができるときいたのですが。

A. 英国等諸外国で、清涼飲料水中の安息香酸（保存料）とアスコルビン酸（酸味

料、酸化防止剤) が、ある条件下で反応しボトル中でベンゼンを生成すること、市販製品中にベンゼンが低濃度検出されること等が公表され、ベンゼン 10 ppb (1 ppb は 10 億分の 1) を超える製品の自主回収が要請されました。

国内では、厚生労働省が、清涼飲料水の市販製品で、安息香酸とアスコルビン酸の両方が添加されている 31 品目について、ベンゼンの含有量の分析したところ、一部の製品から 73.6 ppb のベンゼンが検出されました。また、いわゆるドリンク剤 21 製品の調査でも、一部の製品から 15.4 ppb のベンゼンが検出されました。わが国では食品中のベンゼンに関する基準値はないものの、WHO 飲料水ガイドライン (第 3 版) のベンゼンに関するガイドライン値及び水道法での水道水のベンゼンに関する基準値である 10 ppb を超えてベンゼンが検出されたことから、厚生労働省は販売業者に対して分析結果を通知し、回収を行うよう要請しました。さらに、販売業者の自主調査でも、清涼飲料水の一部の製品から 17 ppb のベンゼンが検出されたため、自主回収が行われました。

なお、安息香酸とアスコルビン酸はともに果実等に含まれている物質です。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/07/h0728-4.html> (清涼飲料水中のベンゼンについて)

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/08/h0807-3.html> (医薬品又は医薬部外品たるいわゆるドリンク剤中のベンゼンについて)